

AIDS UPDATE

No.52 2005.3.2

広島大学病院

エイズ医療対策室

内線5581 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

平成16年度エイズ講演会 その1

【平成16年度広大病院職員エイズ講演会】

日時:2005年3月11日(金)17:30~19:00

会場:広島大学病院外来棟3階大会議室

演者:味澤 篤(都立駒込病院感染症科)

演題:「こんなときエイズを疑ってほしい」

—HIV急性感染症の実際

■ 日本でもかなり多くのHIV/AIDS患者を診ている東京都立駒込病院から、感染症科医長の味澤先生をお招きして講演会を行います。

■ 平成16年度広島大学病院に来られたHIVの新患者数は、18名になりました。急速な増加です。また、血液内科以外のどの科でも診る可能性のある普通の疾患になってきています。最新のHIV/AIDS情報、診療のコツをお聞きするいい機会です。みなさまふろっでご参加ください。

平成16年度エイズ講演会 その2

【平成16年度エイズ学術講演会】

日時:2005年3月14日(月)17:30~19:00

会場:広島大学病院外来棟3階中会議室

演者:杉浦 互(国立感染症研究所)

演題:「わが国の薬剤耐性HIVの解析から」

■ 国立感染症研究所村山分室エイズ研究センター第2研究グループ室長の杉浦先生にお越し頂き、薬剤耐性ウイルスについてお話し頂きます。

■ 杉浦先生は厚生労働省の研究班を通じて、日本国

内のHIVの薬剤耐性検査を一手に引き受けておられます。基礎から、臨床につながるわかりやすお話がお聞きできると期待しています。

■ 厚生労働省エイズ動向委員会より、新規感染者、患

エイズ動向委員会 第Ⅳ期報告

者報告が発表されました。今回の報告期間は、平成16年9月27日から平成17年1月2日(報告は3ヶ月毎、1年に4回)と、平成16年の年間報告です。

■ 第Ⅳ期の新規報告数は、HIV感染者が190名、エイズ患者が93件でした。また、平成16年の年間報告では、HIV感染者748名、エイズ患者366件として過去最高となっています。

■ このうち、献血でHIV抗体陽性と判明した件数は、5,473,119件中92件で、10万件あたり1.681件とこれも過去最高となりました。

■ HIV感染症は身近な誰にでも起こりうる感染症であることを認識し、日常の診療現場においても医療従事者が早め気づいて抗体検査を勧めるなど、早期の発見・治療に努めていくことが望まれます。



平成16年度エイズ治療拠点病院 医療従事者海外実地研修報告 (サンフランシスコ研修)

小児科 石川 暢恒

◇ 私は昨年4月より、エイズ予防財団リサーチレジデントとして、広島大学病院エイズ医療対策室のチームに加わっています。拠点病院の医療従事者を対象とした海外研修は年数回行われており、今回私は平成17年1月29日から2月13日までのサンフランシスコ研修に参加しました。

◇ 小児科医として5年間臨床を勉強してきた私にとって、HIV感染症は未知の領域でした。抗HIV治療の進歩により患者さんの生存率は著明に伸び、現在ではAIDS指標疾患を発症すること無く日常生活を続けることができるようになってきています。またそれに伴って、長期間内服を続けなければならないために、薬剤の副作用が問題となっています。その一方でHIV陽性患者は増え続け、AIDS発症で発見される人も少なくない現実があります。まだまだ多くの人（私も含めて）はHIVの知識が不足しており、学ばなければならないことは多いと言えます。

◇ サンフランシスコでは2週間のスケジュールが設定されていますが、平日は基本的には朝から夕方まで研修が入っています。抗HIV薬の基本事項から使用方法の注意点、薬剤耐性についてのレクチャーや、サンフランシスコでの疫学的な成功の歴史、HIV予防における行動変容についてのレクチャーがあり、いずれも興味深く有意義でした。また小児科、内科のラウンドに参加させて頂く機会にも恵まれ、HIV感染患者さんは入院していなかったものの、貴重な体験となりました。HIV陽性患者のプライマリ・ケアの診療に実際に立ち合わせて頂く機会や患者さん対話できる機会も設定されており、そのような経験から得たものは多かったと思います。

◇ 日本と比較し、大きく異なっていると感じたのは、NGO活動の活発さ、幅広さでした。ゲイコミュニティやドラッグユーザーのなかに入っていくって予防活動を行う組織もあれば、「元気な」HIV感染者に対し、仕事をするためのスキルを身につける場を提供し、職場の斡旋も行う組織もあり、病院の中だけでなく社会としてもHIVと向き合っていく姿勢が感じられました。

◇ 今回の研修は包括的にレクチャーを受け、医療システムとしてHIVケア体制をみることができ、自分にとって有意義な研修でした。今後の医療活動に生かしていきたいと思っています。

第30回広島県病院学会 看護部参加報告

■ 2月20日(日)に広島医師会館にて第30回広島県病院学会が開催されました。エイズ予防財団主催のサンフランシスコ研修参加者で構成される看護師グループ「エイズワーキンググループ」のリーダーである木佐貫尚美さんが「AIDS研修参加看護師の活動と今後の課題」を発表しました。

■ ブロック拠点病院の役割である情報発信の一手段として初めての参加でした。未だに「HIVは特別な病気。一般病院で見つけるのは困難」という意識が強くあり、今後は早期発見のための臨床での検査普及が特に重要になってくるでしょう。患者さんがまず行くのは、開業医や一般病院です。そこへの働きかけがまだまだ不足していると感じました。

<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部(5581)までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

nobotaka@hiroshima-u.ac.jp